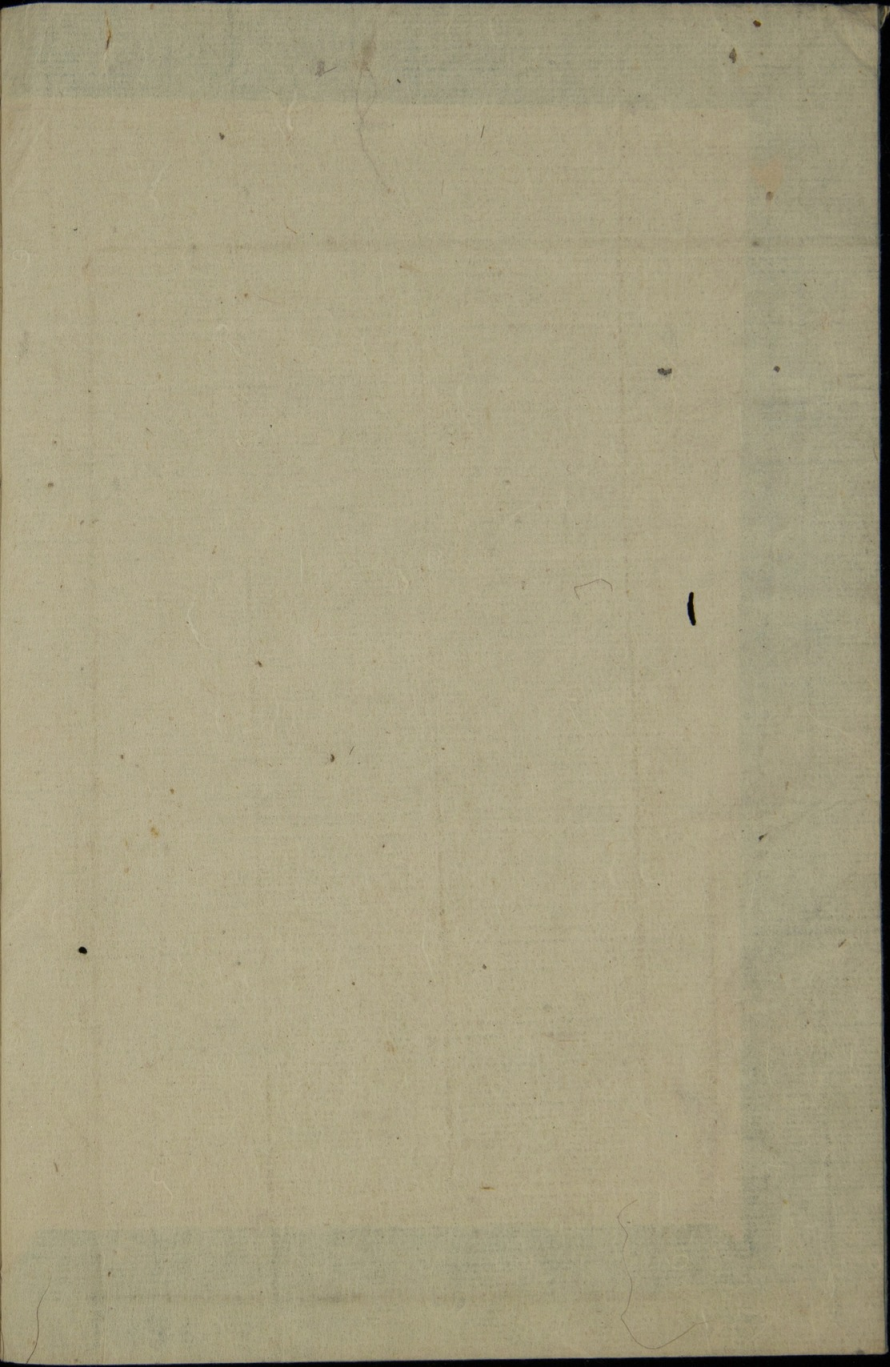


詞  
通  
路

上

L807  
E  
1





詞のかよひ路序

世ふ何事や何事そ人のもて何そふわき。ちあま  
人の心を樂しませしめさゆもなむ好むあまの  
今れや。それの中ふ歌よむまをさなむ。物より  
こやふまさりてそ何んき。はまらとぬこはし  
せも。うればとも。思ふ心をのつら様よむ出  
あらむ。それ言葉のよはし。うらむを。人のき

めて。おむのしやもとと終しやもはまむふ。初め  
そはなくさきて。樂しきおもふ色にこそなり。  
かくいふも古事記日本紀ふえにて。神世上古  
此哥のもやうむひちなれり。今此世とてえ  
あらよこやあるるりなあるる。そも

藤原奈良の法代を經て。寛平延喜のころを  
ひよる。大やけわこいよくはありふのみしを



もて阿そひくさとあがりて。花ね葉も虫のゆる音  
ふおけ。月雪霞のをまふしふもよあされ。高き  
みしうたみやわびかゝるくさはひとあむをあ  
もてゆたて。事ひろくあはまゝふ。那ふとれ  
題をまうけた。おのゝ身ふあつらぬ事知も。  
そのをまふしふおきあはこやをを。意はまれ  
旅ふまは。海川野山あ名やころふよそへ。こは

も海こそ此あるを引いて。廿六のひふは  
さぬ免つらしたるをやはけえ。あまを  
志難く高く起けりおのしやふや。ま  
あひつ。学ふのちるひりのほとと。よみゆる力  
のきもち。やうくお見えあはれ。そのよれ哥を  
よれ哥と見えあはて。同じ学ば友多しをさら  
ぬ。又さらぬよるくおても。こそおもしろや



やま見ら。或を遠たさひふも字つゝ一考へ  
て。もてをや出めるよ。思ひほこるともみられや。  
ゆとら路よく遊あし可解しやも。されなむ  
やあて。上古中昔の人。ん詞の免て多たよ。神  
も人もん然うとわしけむあめしおほえそ。  
言靈ちはふ道ゆち志るしやもゆあをのりける。  
今もあしし心を種の道なれえ。いあて世よ秀

多きをぞもて。心をくつた。思ひをあらして。よき世  
のへまをむす。於ほろけあらぬ志をぞ形まて。  
一首あてとよく。とみえさるむを。かへし  
その楽しさを後め解めやと。まゝ家集おまれ  
何れまれ摺巻おろはして。世ふひろくならむ  
後も。末の世久しく傳をりて。ふ代又とちおめ  
詞の玉をぞ思をむあえ。きくさへおむ  
何るをき。



大あゝの世あも志られぬ人の。哥卷よ執らうとれる  
 多めしとせくわのらに。務本朝臣山部宿祢を日本  
 記やとよもその名志るされさる人々をわめしを。  
 美葉集ふんえする。好むひみした。此二人を神皇  
 と阿阿志もりのそた人をれと。あふふをわも  
 多やよとれさるなり。喜撰法師檜垣姫をとも。その歌  
 ふより世ふ阿ますひく志るぬ人なくこと。かくひふも

はしめようぞ。此道は与ねるものかきりをおこして  
ふるる船也。今の世の人よきいそむ一首やいへやうと。  
いさゝかも古は法ふ多きひかきりあも昔は例  
ふよ解さうむも。いふあひなくらちをうたれと  
なるとあり。詞は玉緒詞の八衢をうひまぬひの  
ほやふ。いくまてととるあしよきあきら先させ  
まわしくぬむ。そふあも人たりくちあれたる



学此道さありて。そこかしこよむべきをいふ所らは  
何れ礼の書やと。やむくふめつらゝの形事おなれ  
や。もやく鈴屋翁の著しおなれあるを。まめやか  
教へさとして。さへて物学ふ人のあめふその功よ  
ちくこそおなれ。それおつきて後鈴屋翁の八  
此志をこそまめやのなる教なるを。わめやとあ  
れちあくを形ちあに書ちりとあなれ。さる此

をせる。詞の通路を各家の教いちりる。まめくし  
書あり。此道未深く入り。くはく、阿きくふはれ  
ちありあてん。かくもえさとひましく形む。

文政十一年戊子秋

本居大平



詞通路上卷

本居春庭著

よめり侍國のまぢれいしりあや〜く久き〜くたかな事  
いりつらゆ〜くそ又さほ〜ひさかな〜おのつ〜くは〜あ〜みりて  
い〜ゆ〜い〜い〜かもた〜くま〜れ〜あ〜い〜い〜く〜ま〜い〜ま〜ち  
ふかむ〜ま〜く〜か〜れ〜ま〜の〜ま〜い〜ま〜む〜い〜つ〜は〜い〜し〜く〜の〜あ〜ま  
う〜く〜む〜く〜ま〜ま〜あ〜ま〜な〜り

そ〜い〜つ〜く〜ま〜け〜く〜ま〜禁〜の〜く〜い〜路〜ま

あ〜い〜ふ〜い〜み〜て〜ま〜ゆ〜く〜く〜柳〜ま〜

はて今れ人ま詞め〜ま〜い〜く〜い〜あ〜れ〜ま〜は〜く〜ひ〜い〜ま〜ま〜い〜





あつていゝるは是れを時をいふなりと云ふ事  
は是れを時をいふなりと云ふ事  
は是れを時をいふなりと云ふ事  
は是れを時をいふなりと云ふ事  
は是れを時をいふなりと云ふ事  
は是れを時をいふなりと云ふ事  
は是れを時をいふなりと云ふ事  
は是れを時をいふなりと云ふ事  
は是れを時をいふなりと云ふ事  
は是れを時をいふなりと云ふ事





何處へゆくがふれん致るもむとをわくさせいふくもれんれ  
 まふりよゝく老くもかまへんむ事をもほろぶればいふれもむ  
 かるくかへるひそはるもろのまゆあひのなるもむく  
 くらひひれどなれあれもまもつた不ねむりもま  
 るくかへるむかふなり

詞の自他の事

歌よむもふりくくもむもをむりむりもひつゝの事とては  
 ころはもむもむりくくもむもなれくも此自他の事  
 活むもねもむりくくもむりそおのむりくくもむり  
 まるくむりくくもむりくくもむりくくもむり

わきまをわきまに用ひてはつてはれ  
を事なくして自ら混雜してゆくのを  
之をけれながらふとひきかへして  
かりそめはけしきにまじりてゆく  
はらへいひつらあはれははらへい  
ふこと其人自他の相もたゞ煙を  
まらしてひきかへすことわきまの  
ちとつたおのちとちとちとちと  
ちとつたおのちとちとちとちと  
ちとつたおのちとちとちとちと  
すことわきまをわきまに用ひては



けとおのつゝもあつゝもいひつゝもなへおひれにうつゝも  
 といふもつゝ後をこつゝもす人もおけつゝもあつゝも  
 あやまらなまなまきつゝもあつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝも  
 といふもつゝもあつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝも  
 いひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝも  
 いひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝも

さて自他の詞云つゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝも  
 いひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝも  
 いひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝも  
 いひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝも  
 いひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝも  
 いひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝもいひつゝも

名目としてありあけ〜細のわ〜とあり、四カとあり、加行四段

の〜〜〜一カ〜あり、加行一段の〜〜〜中カ〜あり、

加行中二段の〜〜〜下カ〜あり、加行下二段の活〜禁

変カ〜あり、加行変格の〜〜〜一カ〜あり、  
條の行〜と〜あり

よ〜〜〜〜〜



おのり  
おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

		四カ	四カ	四カ	
		あ う ぞく	う う く	あ う く	
四カ	四カ	下カ	四カ	四カ	下ア
あ う く	あ せ ぐ	あ う そ く	う う く	あ う く	う
下カ	下カ	下カ			下カ
あ う く	あ せ ぐ	あ う そ く			え う く
	下ラ	下ラ		下ラ	下ラ
	あ せ ぐ	あ う そ く		あ う く	え う く
下ラ	下ラ	下ラ		下ラ	下ラ
あ う く	あ せ ぐ	あ う そ く		あ う く	え う く

○つらひち上

〇五





一ナ		下夕		中夕		四夕			下廿
こ		い		お		た			や
下廿	下夕	四廿	中夕	四廿	四夕	下夕	四夕	変廿	
こ	な	り	と	お	ま	た	う	ま	
	下廿	下廿	下廿		下廿	下廿	下廿	下廿	下廿
	な	い	と		ま	た	う	か	や
		下ラ			下ラ	下ラ		下ラ	
		い			ま	た		か	
	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ		下ラ	下ラ	
	か	い	と	お	ま		う	か	

〇うゝゑち上

〇六





一ヤ			下ニ		四ニ	四ニ			
あび申			たむ		きむ	くむ			
四廿	一ヤ	下ニ	四廿	中ニ	下ニ	下ニ	四ニ	下ハ	下ハ
あひやれ	い	む	さむ	うむ	きむ	くむ	いむ	んむ	かむ
	下廿	下廿	下廿	下廿	下廿	下廿	下廿	下廿	下廿
	いむ	む	さむ	うむ	きむ	くむ	いむ	んむ	かむ
				下ラ	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ
				うむ	きむ	くむ	いむ	んむ	かむ
下ラ	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ	下ラ		下ラ
あひやれ	いむ	む	さむ	うむ	きむ	くむ	いむ		かむ

〇いひち上

〇七

中ラ	中ラ	中ラ						下ヤ	下ヤ
申	ふ	あ						ん	き
申	ふ	あ						ん	き
四廿	四廿	四廿	四ラ	四ラ	四ラ	四ラ	四ラ	一六	四カ
申	ふ	あ	し	き	き	う	あ	ん	き
			四ハ	四廿	下カ	四廿	下カ	下廿	下廿
			し	き	き	う	あ	ん	き
		下廿		下廿					下廿
		あ		き					き
							下ラ	下ラ	下ラ
							ん	き	き
下ラ	下ラ	下ラ		下ラ	下ラ		下ラ	下ラ	下ラ
申	ふ	あ		き	き		あ	ん	き



牙一版		下ラ		下ラ
		を		き
牙二版	下ワ	四ラ	下ラ	四ラ
	う	を	を	き
牙三版				
牙四版	下サ	下サ	下サ	下サ
	う	を	を	き
牙五版		下ラ	下ラ	下ラ
		を	を	き
牙六版		下ラ	下ラ	下ラ
		を	を	き

牙一版牙二版を四種のをうらまき入よりてすうよりなり  
 牙三版をわかく佐行下二版のをうらまきなれといとわかれ  
 うをわかれをうらまきとすわく牙四版を佐行下二版の活よ  
 かきわく牙五版牙六版を佐行下二版の活よをうらまきうて外の  
 をうらまきなり

右に挙ぐる句のうち身一肢と身二肢といふうち身三肢  
と身四肢といふと出でてさうち法行下二肢は法言しるも  
他は法言しるも他は法言しるもさうのさうもあつて一法  
法言しるもさうして名せしつれともあまたしるるが不  
よく考へて身五肢と身六肢も句の法とあつてことこれ  
とさうもなつたか身一肢よかき句の身二肢よかき  
句も又身二肢よかき句の身三肢よかき句もさうもあつて  
さうもあつてはさうもあつてはさうもあつてはさうもあつて  
あつてはさうもあつてはさうもあつてはさうもあつては  
あつてはさうもあつてはさうもあつてはさうもあつては  
あつてはさうもあつてはさうもあつてはさうもあつては  
あつてはさうもあつてはさうもあつてはさうもあつては



されたる事をして百二つとありされしはあけけりてあり  
けりてなつてつとめりてとて出て居りてとあり  
さる物の極はいひなきをそのなかりてなれしは事なり  
あけつてとありて思ふとさるをいひしはあけけり  
なれはさるてはさるてはさるてはさるてはさるては  
いさうとありてさる事なれしはあけけりてとあり  
よくて思ふておのつてとあり

よもよもよく自他のさるてはさるの法よよも事なれしは  
いさうとありてなれしはあけけりてとあり  
てわらうとありてさるてはさるてはさるてはさる

あつゝゝぬとなきよはあゝねといとくまれさるるむなうをほく  
行よてゝゝゝは加行よてもとく。きゝふ。波行よてはそふ。そがふ。  
四行よてはそふ。そがふ。なまれとてひなり依行と羅行よつゝ  
てとゝゝゝとふと多くはそ何の活のそ何の才一の言才とぬき  
才一の言より依行と羅行よつゝてとゝゝゝと事なり才二れ言  
うゝゝゝとむとわらう。あゝ。を加行の活にたれとかうむと  
ろゝ。あゝ。と依行よつゝなむとむ。ハ。麻行の活をたれと  
あゝ。うなやま。とま。と依行よつゝかう。あゝ。と多行の  
とゝゝゝときたれとたゝかうとま。あゝ。と羅行よつゝいゝふ  
そがふ。ハ。波行の活をたれとはういゝとま。そは。と羅行よつ



つるなまをさしてゐるり身三は喜よりうつろむをばはるるも加行の  
 こゝろきなれとくよりまゝとて佐行よりうつろあむま麻行の  
 活なれとむよりあむまと佐行よりうつろるるり身三は喜より羅行  
 よりうつろむいとくしれるるり身三の喜よりうつろふいとくも加  
 行の活なれとくよりあむまと佐行よりうつろあむまを波行の活  
 なれとほよりあむまと佐行よりうつろむも麻行は活なれ  
 とをよりうつろむとと羅行よりうつろむとけりてとて身一  
 の喜身三は喜身三の喜より佐行と羅行よりうつろむとてきた  
 る個身一の喜よりうつろむいと多し身三は喜身三の喜よりう  
 つろむいと多し又身二は喜身四の喜より佐行羅行より

う。活きくもあれとそれいふう。日くそ中二股の活相を  
そ身二れ喜よ依行羅行の身二れ喜のそひてお。く。を。お。き。さ。ま。ま。  
あ。き。さ。ま。ま。と。う。く。を。さ。ま。ま。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。  
下二股の活相をその身四れ喜よ依行羅行の身二れ喜のそひて  
と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。  
活く保るり又おそれやくを活相のそりれ喜よ依行と羅行  
小。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。  
自他のと。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。  
以。よ。う。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。  
之。以。之。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。と。う。く。



のちかくは二行をうつして自他の異なるれども小のついで  
別々くころあるなどもあるなり一様の法よき  
きすもふもふもふもふもふと後りくもあれと一様の法よ  
限りてころとそ又異なるや又別の法よきと後りくもあれと一  
かれうきありころむふところよりあやとあやるがまのや  
よもあけくはりのいひまよはれよもなほ法きたるるありあ  
りれとそききふなそくしてききかたきさてういへおそ  
てそききくはりくまかしくけれいけふその法よ  
さまのいひをもちそれよとこの大體を志すはあくをそそ

○同行して自代のこころを例

加行四段活詞

曰下二段活詞

あうそく

あうそく。

なひらく

なひらく。

はくく

はくく。

のこ

のこ。

やうく

やうく。

右よなるを相のおのつゝはをいふ句下なるよのを  
はをいふ句下なるよのを

加行下二段活詞

曰四段活詞



くゝゝゝ。

とゝゝゝ。

ぬゝゝゝ。

そゝゝ。

やゝゝゝ。

くゝゝ。

とゝゝ。

ぬゝゝ。

そゝゝ。

やゝゝ。

是をよみたるはこゝにさかして下二段活の方とのおのつゝ  
ゆるゝをりし四段活の方とのをゆるゝをりし四段

佐行四段活詞

曰下二段活詞

ふを。

ふを。

右よみたるみづゝゆるゝをりし下二となすをとのをゆる

まゝをりわこゝをなや

多行四段活句

日下二段活句

そゝろ。

そゝろ。

たろ。

たろ。

右よなををたのたつゝゝゆるをりわいゝをひかゝるをたよ  
ゆるをりわをりわゆる

波行四段活句

日下二段活句

たゝろ。

たゝろ。

ちゝろ。

ちゝろ。

つゝろ。

つゝろ。



とけふ。

とけふ。

なうふ。

なうふ。

右よなきまおのつゝをりつゝは下なるものを

とをりつゝをりつゝ

波行中二股活相

口下二股活相

のづ。

のづ。

右よなきまおのつゝをりつゝは下なるものを  
とをりつゝをりつゝは下なるものを  
とをりつゝをりつゝは下なるものを  
とをりつゝをりつゝは下なるものを  
とをりつゝをりつゝは下なるものを  
とをりつゝをりつゝは下なるものを  
とをりつゝをりつゝは下なるものを  
とをりつゝをりつゝは下なるものを  
とをりつゝをりつゝは下なるものを  
とをりつゝをりつゝは下なるものを

麻行四股活詞

日下二股活詞

まゝむ。

まゝむ。

たゆむ。

たゆむ。

なぐさむ。

なぐさむ。

やむ。

やむ。

申すむ。

申すむ。

右よかろそ物のおおつろろ物をもつことと下なる物と  
物とをとりかへるなり

四維行四股活詞

日下二股活詞

つ。

つ。



右と左はかのつゝ地をとりお洞下かき他を結する  
とりかこしをかりせこしをふりつゝとつゝ

四維行下二股活相

曰四股活相

きゝゝ。

きゝゝ。

わゝゝ。

わゝゝ。

やゝゝ。

やゝゝ。

こゝゝ。

こゝゝ。

そゝゝ。

そゝゝ。

是をよなることとてさすやそ下二股活の字物のおのつゝ結  
るをとりお洞活の字ものを結するをとりお洞なり

羅行四段活句

同上二段活句

あなうらう。

あなうらう。

いの。

いの。

そま。

そま。

ゆ。

ゆ。

け。

け。

右上なる西と地すまをソハ河下なるを他より地せらるゝと  
おのつゝ地せらるゝとをソハ河下なり下二段の活を  
らむしれそまうらうとて上なるハ活きさまといふしうまをなり

是より佐行と羅行の活句をうらうて自他のことなるを句とあ



さうしうさうまもよるまもしうかく加行めまもしうしうし行羅行  
 うしうし治けるをま行の才一れ善才三の善才五の善よし行  
 羅行よしうし治く事なり外の行しうしうしと是もまもしう  
 てまもまもしう挙しう細のたのうしうまもしうしうその行  
 の才一れ善才三の善才五の善よし行羅行よしうしうしうし  
 ○加行しうし行しうしうしうて自他のまもしうし例

加行四股活

佐行四股活

うこく。

うらうら。

おしうく。

おしうら。

かこく。

かこら。

なひく。

く。

なひく。

く。

右となすちおのつろくぬきをりつろく下なるを他を流

まうろくをりつろく

加行四段活

依行下二段活

おく。

おく。

かく。

かく。

さく。

さく。

しく。

しく。

ふせく。

ふせく。



右よなるまゝをうらうらとゆきまをりし下なるも他よゆきま  
まをりし下なるまゝなり

加行中二股活

佐行四股活

あゝゝ。

あゝゝ。

まゝゝ。

まゝゝ。

はゝゝ。

はゝゝ。

右よなるまゝをうらうらとゆきまをりし下なるも他よゆきま  
まをりし下なるまゝなり

加行下二股活

佐行四股活

あゝゝ。

あゝゝ。

ふ〜。

ふ〜。

右よなるまおのつ〜ゆきをりか下なるまおをゆきを

りかこ〜えなり

○加行より羅行よりつ〜て自他のま〜例

加行四版活

羅行四版活

つ〜。

つ〜。

の〜。

の〜。

ふ〜。

ふ〜。

〜。

〜。

右よなるまおをゆきをりか下なるまおのつ〜ゆきを



いふことゝなり

加行四股活

あさむく

いつく

く

く

く

羅行下二股活

あさむく

いつく

く

く

く

右よなるをうろく細くをりかこゝろ下なるを他

せしむるをりかこゝろ

加行下二股活

羅行四股活

かゝる。

うゝる。

さゝる。

さゝる。

さゝる。

さゝる。

たゞる。

たゞる。

ひろる。

ひろる。

右よりの六拍を依りて、とり下なるまゝか、のつゝ、依りて

ソカこゝろるり

○依行より四行よりつゝて自他のまゝる例

依行四行活

羅行下二行活

こゝろる。

こゝろる。



そくめいご。

そくのうさご。

めいご。

めいご。

とてなまご。

とてなまご。

とてなまご。

とてなまご。

石上かきくさおを地すゝをりか河下なまごを他へ移せらる

をりかきくさおをり

○多行より佐行よりして自他のことごとく例

多行四段活

佐行下二段活

うら。

うら。

うら。

うら。

しう。

ちう。

しん。

しん。

ちん。

しん。

右よかろをさうろくしんすをりか調下るは他ふんす

るをりか調なり

多行中二辰活

依行四辰活

あづ。

あづ。

く。

ひ。

あづ。

あづ。

く。

ひ。



右よなるるをわのつゝつとゆきとりし詞にちるる物をゆきと  
りし詞をさう

○多行より羅行よりつゝて自他のとるゝ例

多行四肢法

羅行下二肢法

あやまらう。

あやまらう。

かこらう。

かこらう。

こころらう。

こころらう。

たもとらう。

たもとらう。

右よなるる物をゆきとるゝし詞にちるるみつゝつとゆきと  
と他のゆきとるゝし詞をさう

多行下二辰活

あづる。

まづる。

羅行四辰活

あづる。

まづる。

右よなるは物を控すをいふ下なるをいふつゝ物を  
りあそびえり

○奈行より羅行よりつゝて自化のつゝて例

奈行下二辰活

うさぬ。

はづぬ。

羅行四辰活

うさなる。

はづなる。

右よなるは物を控すをいふ下なるをいふつゝ物を



ことごとしり

○波行より佐行よりして自他のことごとしり例

波行四行活

佐行四行活

うゝゝゝ。

うゝゝゝ。

あゝゝゝ。

あゝゝゝ。

かゝゝゝ。

かゝゝゝ。

まゝゝゝ。

まゝゝゝ。

やゝゝゝ。

やゝゝゝ。

右上なるを左のうゝゝゝをりつゝと下なるを右のうゝゝゝ

然すゝゝをりつゝと

波行四股活

あふ。

くふ。

たふ。

さふ。

なふ。

右トあるハいつ〜〜然キ〜〜をりし初下なる地ニ然キ〜〜  
をりし〜〜なり

波行中二股活

あふ。

依行下二股活

あふ。

くふ。

たふ。

さふ。

なふ。

依行四股活

あふ。



かろふ。

わらふ。

むろふ。

むろふ。

右よみむろふのつゝむろふとつゝむろふ下なる物とむろふと

りつむろふ

○波行より羅行よりつゝて自他のつゝつゝ例

波行四段活

羅行下二段活

まろふ。

まろふ。

よろふ。

よろふ。

やろふ。

やろふ。

やろふ。

やろふ。

やー

やー

右に上がると、下になるが、他は、

波行下二反法

羅行四反法

かー

かー

くー

くー

さー

さー

たつさー

たつさー

そー

そー

右に上がるなり、下になるなり、あつたり、



つゝこゝろをなす

○麻行より佐行よりつゝて自他のつゝて例

麻行四股活

佐行四股活

くろむ。

くろむ。

まむ。

まむ。

なむ。

なむ。

なやむ。

なやむ。

くけむ。

くけむ。

右となすをふのつゝて麻をよりつゝて下なるは物を結す。

をつゝてつゝてつゝて





まゝまゝのつゝまゝまゝ

麻行下二股活

佐行四股活

まゝまゝ

まゝまゝ

右上なるおのつゝまゝまゝをとりし下なるおのつゝまゝを結する

とりし初まり

○麻行より羅行よりつゝつゝて自他のつゝつゝ例

麻行四股活

羅行四股活

たゝむ。

たゝむ。

右上なるおのつゝまゝをとりし下なるおのつゝまゝを結する

りしつゝまゝ

麻行四行活

うらむ。

かむ。

うむ。

ぬむ。

ねむ。

右にたつて他を施さるるをりし下たる他を施せらるるを  
りしこころなり

麻行下二行活

あむ。

羅行下二行活

うらむ。

かむ。

うむ。

ぬむ。

ねむ。

羅行四行活

あむ。



あゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝ

きゝゝゝゝ

きゝゝゝゝ

きゝゝゝ

きゝゝゝ

きゝゝゝ

きゝゝゝ

石上なまをぬきぬきとくぬきなまをぬきぬき  
きゝゝゝゝゝ

○也行より佐行よりして自他のまゝ例

也行下二版活

佐行罷版活

あゝゝ

あゝゝ

いゝゝ

いゝゝ

ついで。

ついで。

ちよ。

ちよ。

て。

て。

右よかゝるはおのつゝゆるまをりあ細トたるち物をゆるま

とつあこゝろをなかり

○羅行より佐行よりつて自他のまゝに例

羅行羅辰活

佐行羅辰活

ちよ。

ちよ。

て。

て。

ちよ。

ちよ。



かゝる。

かゝる。

めく。

めく。

右よかゝるまおのつゝはゝをりか向トなゝゝをとおとほきゝ  
をりかゝるゝなり

羅行四反活

佐行ト二反活

かゝる。

かゝる。

つゝる。

つゝる。

くゝる。

くゝる。

まゝる。

まゝる。

あゝる。

あゝる。

右上から左下へつゝ地をなすりし下なるを他へ地をなす  
るをりし下なる

羅行中二版活

佐行四版活

あゝ。

あゝ。

しゝ。

しゝ。

あゝ。

あゝ。

右上から左下へつゝ地をなすりし下なるを他へ地をなす  
るをりし下なる

羅行下二版活

佐行四版活

あゝ。

あゝ。



かゝる。

くゝる。

つゝる。

わゝる。

かゝる。

くゝる。

つゝる。

わゝる。

右上なるものをうつゝ移すをりつ下なるものを移すをりつをりつをりつをりつ

○和行より羅行よりうつて自他のものゝ例

和行下二行活

羅行四行活

よゝる。

よゝる。

右上なるものを移すをりつ下なるものを移すをりつをりつをりつをりつ

いそいでるなり

○佐行と羅行をさうさう佐行さうさうたさうさうあさうさう羅行  
さうさうさうさうあさうさうさう佐行と羅行とさうさう他  
のさうさう例

佐行四段活

羅行四段活

かきむ。

かきむ。

かきむ。

かきむ。

かきむ。

かきむ。

かきむ。

かきむ。

かきむ。

かきむ。



右上なまを物と物まををり少向下なまおのりなまを  
り少こころなま

佐行四段活

羅行下二段活

あゝゝゝ

あゝゝゝ

くゝゝゝ

くゝゝゝ

けゝゝゝ

けゝゝゝ

あゝゝゝ

あゝゝゝ

たゝゝゝ

たゝゝゝ

右上なまを物と物まををり少向下なまおのりなまを

こころなま

依行下二版活

羅行四版活

のまゝ

のまゝ

よゝ

よゝ

右となつた他は極まゝとリつ向下なつたまゝと極まゝ  
とリつことばるう世向の事とリつことあるまゝと

右の二つれ活の如く中二版の活向のま行の身二れ書きちひみ  
いりぬまゝ下二版の活向のま行の身四の書きせてねへめえれ  
まゝとさとのまゝにて依行よゝつら文字のまゝにて羅行よゝ  
つら活けを平あく一版の活向よもけ保あくこゝ依行羅行とも  
ま下二版の活よゝまゝたよゝ例を挙くこゝ上の二つれ活



合せてもいともなうなり。○印ハ中二股の活の身二れ喜下股  
 の活れ身四の喜れ志。一なうた。一左の。一ふ活け。一  
 うひ。一。一れ。一。一。

○中二股の活相は佐文字れをひて佐行よりなれ。例

加行

お。く。く。

あ。き。は。き。

多行

く。く。く。

く。ち。く。く。

波行

く。く。く。

く。ひ。く。く。

麻行

あま。

あま。

也行

あや。

あや。

羅行

あろ。

あろ。

右よをるゝゝゝゝとろゝゝゝゝろゝゝゝゝ  
をりよこゝゝゝゝなり

○下二候の注句は佐文字れゝゝゝゝて佐行ゝゝゝゝ例

阿行



う。

加行

う。

佐行

あ。

多行

た。

奈行

な。

波行

え。

う。

あ。

た。

な。

かゝるゝ。

かゝるゝ。

麻行

まゝるゝ。

まゝるゝ。

和行

わゝるゝ。

わゝるゝ。

右とならぬをわとゆふをりつゝ下なるを他とす。例  
りつゝこゝろなり

○中二段の活向は羅文字のまゝにて羅行よりなる例

加行

かゝるゝ。

かゝるゝ。



多行

くろく。

波行

くろく。

麻行

うろく。

也行

くろく。

羅行

あろく。

くろく。

くろく。

うろく。

くろく。

あろく。

右よかすゝいゝうゝゝ地まゝをりゝ下なうゝ他ゝまゝをら  
うゝとちゝのうゝゝ地まゝをりゝ下なうゝ

○下二候の注内は羅文字升きして羅行よりつれゝ例

阿行

う。

え。

加行

た。

た。

佐行

ふ。

ふ。

多行



まろ。

まろ。

奈行

な。

な。

波行

な。

な。

麻行

ま。

ま。

和行

わ。

わ。

右上がるまをいれをまろをろりわ下なるは他はまろを

ろくとおのつゝつゝ延せらるゝとをりつ詞なり

○又加行いり也行よりつゝて自他のよりつゝ事たつたよあけ

つゝ詞のよなりつゝ折れぬ例あへくおとつゝれと未んあへらる

加行四辰活

也行下二辰活

きゝ。

きゝぬ。

右よかゝは物を延せらるゝとをりつ詞なりとあつゝつゝ延せらるゝとをりつ詞なり

○又同一詞をよりつゝ清濁よりつゝて自他のよりつゝれと未んあへらるゝとをりつ詞のよなりつゝ例なり

加行下二辰活

同活





ろ。

ろ。

右よなまのつろをゆるしりか下なるおをゆるし  
をりかを紫るり

奈行一版活

也行下二版活

ろ。

ろ。

右よなまのおをゆるしりか下なるおのつろをゆるし  
をりかを紫るり

波行一版活

佐行下二版活

ひ。

ひ。

右よなまのつろをゆるしりか下なるおをゆるし  
をりかを紫るり



とつふこもゆる

麻行一版活

也行下二版活

ん。

ん。

右上かゝるを扱を極まるとりか詞下なるはかのうらう極ま

りかこもゆる

也行一版活

佐行下二版活

い。

い。

右上かゝるものを扱を極まるとりか詞下なるは他の極ま

とりかこもゆる

和行一版活

羅行下二版活

み。

み。

石上なるもさうつらつら結まをさうつら下なるかのつらつら結せ  
らうつらつらつらつら

又万葉よりみとをなれ いうつらなれ なくさなれなとをなれ

も奈行一辰の活詞の似のま才一の言れなよう佐行四辰乃活

詞ようつらつて自他のまそれらるるうらまをあのつらつら結

をりつらつたれを袖を結まをさうつらつてまふとつらつら

又なれをのれまもくまを牙みの喜よう佐行ようつらつら

さう又波行一辰の活詞のひまのま牙みの喜よう佐行四辰の

活詞ようつらつてなれとくまをなれと合くおなりさうつら



奈行下二候の活詞のぬ。のま才一の言より。な。と佐行四  
候の活詞よの。う。た。ま。は。い。活。き。さ。あ。る。

是。ゆ。え。よ。う。あ。け。る。行。の。詞。も。終。多。れ。と。ま。た。不。よ。を。と  
ゆ。え。勝。ち。な。ま。く。て。ま。く。又。活。き。さ。ま。な。も。思。ひ。出  
る。ま。り。ま。ま。記。な。れ。く。終。ま。れ。る。も。あ。る。是。も。な。ま。く  
ら。く。て。ま。く。

○又自他を。う。ろ。詞。の。ま。り。て。活。き。さ。こ。も。な。れ。と。い。ま。な。る  
詞。の。れ。こ。も。あ。る。次。よ。出。行。を。な。ま。く。て。ま。く。

よ。

よ。

是。を。加。行。四。候。の。活。詞。と。同。中。二。候。の。活。詞。と。な。り。

あじやけ。

あじやけ。

是も昔より佐行四辰の活詞とてかゝるのそとくゝの

なり

ひつ。

ひつ。

是も多行四辰の活詞と曰中二辰の活詞と云

志のふ。

志のふ。

中ふ。

中ふ。

こも波行四辰の活詞と曰中二辰の活詞と云

ささふ。

ささふ。

こも波行四辰の活詞と曰下二辰の活詞と云



たつ。

たつ。

し。

し。

是ハ羅行四段の活相と曰下二段の活相とも

か。

か。

ふ。

ふ。

こ。

こ。

これをも羅行四段の活相と曰下二段の活相をて同をなれ

とかたるふこをさると四段は活けしつゝをさうくの活き

概して後の世ををきてていそをれといさうとをなり

え。

え。

こもきふ羅行下二版の活詞うそとくはそくういふはなや

く〜く。

く〜く。

不々。

不々。

く〜くともふ佐行四版の活字集うそか〜不〜なと

そ〜くうた〜の〜なり

く〜く。

く〜く。

あ〜ふ。

あ〜ふ。

こちともふ波行四版の活字集うそ〜な〜なとそえ

ア〜の〜なり

お〜ゆ。

お〜ゆ。



是ハ昔ノ也行下二段の活句トモトナリ。そそそ。たふあ。ななり

あし。る。

あし。る。

こハ昔ノ羅行四段の活句トモトナリ。そそそ。たふあ。ななり

むき。ち。る。

むき。ち。る。

是モ昔ノ羅行下二段の活句トモトナリ。そそそ。たふあ。ななり

か。や。く。

か。や。く。

こモ加行四段の活句ト波行四段の活句トモナリ

む。く。

む。く。

是モ加行四段の活句ト波行四段の活句トモナリ

こ。り。

こ。り。

こを佐行四肢の活句と也行下二肢の活句とあり

まろ。

まろ。

こハ佐行四肢の活句と羅行四肢の活句となり

まろ。

まろ。

こを佐行下二肢の活句と波行下二肢の活句とあり

まろ。

まろ。

こを波行四肢の活句と也行下二肢の活句とて同さなり

八衢波行四肢の活句の志まろとつととつ後のつと志まろ

とつと係を引て同さとつと申れと行と活とこととて同さなり

何なるれと異なることとつとつとをあやまらる



て〜ふ。

て〜ふ。

こも波行四版の活柄と依行四版の活柄とをり

の〜ふ。

の〜ふ。

こも波行下二版の活柄と依行四版の活柄とをり

そ〜ふ。

そ〜ふ。

は〜ふ。

は〜ふ。

ち〜ふ。

ち〜ふ。

是亦も波行四版の活柄と置行四版の活柄とをり

の〜ふ。

の〜ふ。

こも波行中二版の活柄と置行四版の活柄とをり

くろむ。

くろま。

やうむ。

やうま。

なごむ。

なごま。

是亦も麻行下二肢の活詞と佐行四肢の活詞とあり

こゆ。

こや。

こも也行中二肢の活詞と佐行四肢の活詞とあり

くゆ。

くや。

こも也行中二肢の活詞と麻行四肢の活詞とあり

あゆ。

あや。

こも也行下二肢の活詞と異行四肢の活詞とあり



このふらひも横あふく一なましくてきく

はくでふもちおのかのつゝゆきをりつゆにまきふいものを統

すもつこゝろをなまを波なまふおのつゝゆきをりつゆ

ふもつこゝろをなまを波なまふおのつゝゆきをりつゆ

こゝろをなまを波なまふおのつゝゆきをりつゆ

こゝろをなまを波なまふおのつゝゆきをりつゆ

こゝろをなまを波なまふおのつゝゆきをりつゆ

こゝろをなまを波なまふおのつゝゆきをりつゆ

あつて他よゆきをりつゆのつゝゆきをりつゆ

又つゝゆきのつゝゆきをりつゆのつゝゆきをりつゆ





之をいへば戸のすまひてあくるとしののとしつるふかひらぬ  
ことをむねとしてしつるものなり

又づるまねのおのつるゆきをとりむねにれまねをゆする

をとりむねをむねと書記武烈のまねのまふ小阿婆理夏那めのこと

あるあまうつなまをりさういふすれとつさななり又みねの月を待

出つるまふふううねとつちんてうや君あまむきつて

あまをこきつるまふとれつれとつ之きをりつとつとつと

金葉集は早斐國うりのあうてをこきなる人のまふあうけさう

くうれき中してまをそけるあうそまておひりこくううれ

よあままのふれまのいひるまうつわむせとまんとつわまのま

あいにてよほしゆり+をよあをも伯母のうさあひぬけさ尾羽の  
さハあひいりしをさるうりしをさひ行いとあふ  
又身をうきまればをいにてうさ事あねねをたえてあな  
とあはまてたうさておのおのつゆねをいりぬかふをと  
いいても自他たふいれとほつくうさ又まはらめてはるの  
ゆいしをいぬけふとあふしをいりてあふまをいりてとく  
し又まをさうせるとあふしをいりてあふまをいりてとく  
とあふまをいりて又原氏よおのつまをさうつとく  
あふまをさうつとく  
ふんまをさうて目まをさうとくあふまをさうとくあふまをさうとく



かゞとられといまゝ考へ

又ゆゑもたぬのかのつゝはをりつゝぬはなをこのをゆゑも  
そりつゝぬはなをゆゑもまた鏡ゆゑもまた鏡かともゆゑも  
もゆゑもまたもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑも  
ゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑも  
ゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑも

又右今集より廿四日おろしてゆゑもゆゑもゆゑもゆゑも  
ゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑも  
ゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑも  
ゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑも  
ゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑもゆゑも

ときと名をいふなりとありきとていふもおのふのつらきことと  
 けし詞たつらとををゆきしこといふ詞なれとよよをといひてを  
 物をゆきしこととていふとていふ之きをたちとていふれもい  
 あらふ事なるといふに申又第百集をいふていふ家名といふに  
 不つしき家といふていふとていふはもとていふといふ之きを  
 たつめといふといふをいふのさなり下れとていふてゆきゆな  
 さいよふあけといふ今集の名をやいふなむをかかむと改む板  
 本よ名をやいふていふといふをいふていふていふていふていふ  
 集よといふていふ花のたつらといふこととていふていふていふ  
 といふとていふていふていふていふていふていふていふていふ  
 といふとていふていふていふていふていふていふていふていふ  
 といふとていふていふていふていふていふていふていふていふ  
 といふとていふていふていふていふていふていふていふていふ  
 といふとていふていふていふていふていふていふていふていふ



よたちなむとこけくはさる一本そまろり又伊智集よ人も  
 子ぬ尾ふち袖よもろひつきていとあるなる名をやまなむ  
 と是も文字うてまこれとよよあけくまなましくてよむし  
 又あけくししよめたるたのこをかきせつとあるあけまおの  
 つくぬをりつ詞くしハ袖をぬきまをりつ詞とまこし  
 ぐとくけ又百禁ふ山川のへちりてあれと又屋中かと中ふ  
 へなりてとあるへちりてまおのつくとぬをりつ詞なれとの  
 とくさささるしけれとをとくささるしつとまきとぬ又  
 百禁よちとやふる神をこもむけ麻都呂信奴ひとをもや  
 とあるまろりつねはもろりつねとあるまきおるあり

又今世人の言小泉風なふ ふきかひく ふきちる 吹て  
かきよあるを自他混雜してとれぬのま申急をふくを泉風  
草のちり石をころころとけきききききききききききき  
とはまきききききききききききききききききききき  
たきひたかあききききききききききききききききき

又きききききききききききききききききききききき  
うきききききききききききききききききききききき  
たきききききききききききききききききききききき  
ゆきなまあふ秋の初風がききききききききききききき  
そきききききききききききききききききききききき

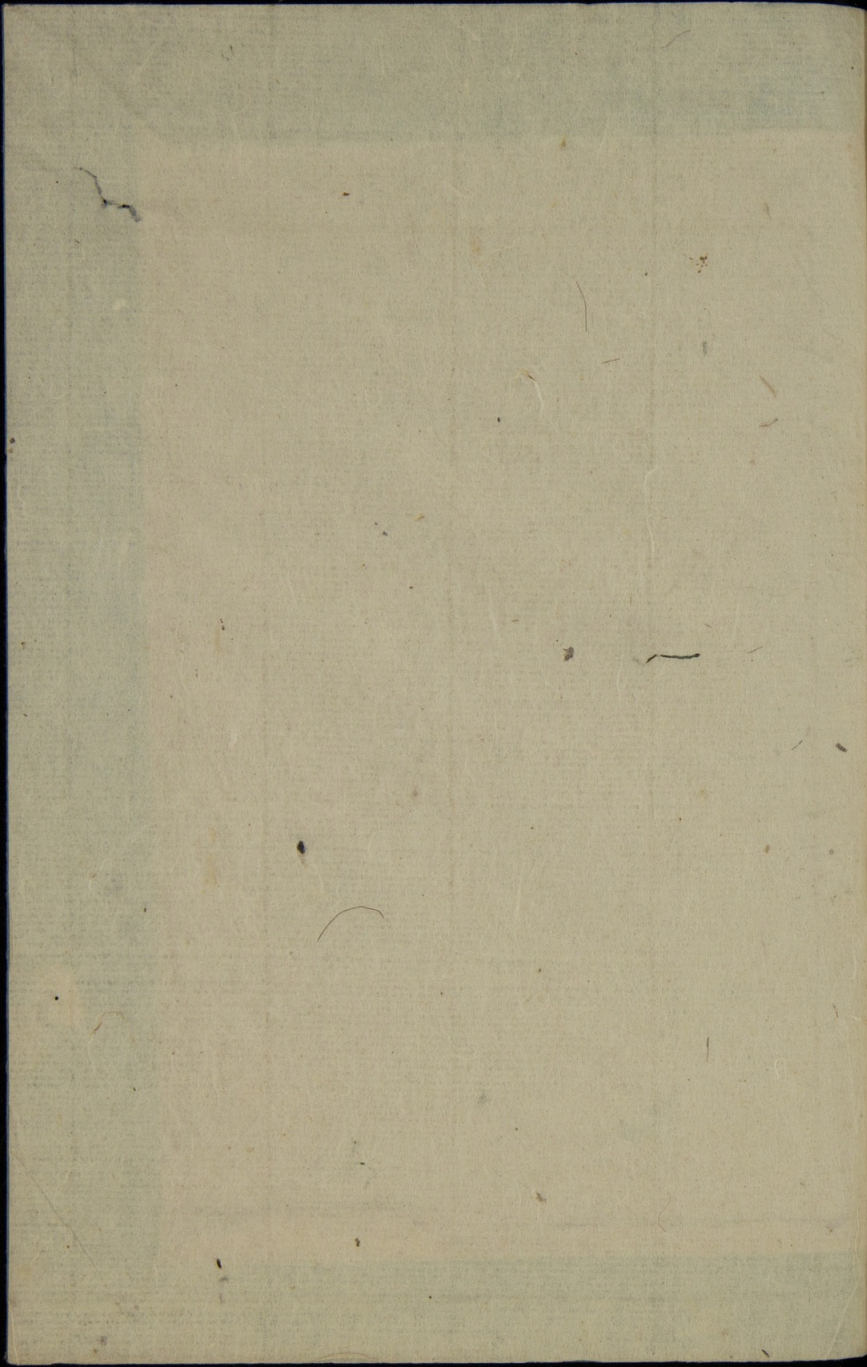



なりしれとおのつゝつゝ猶もさよしのとつし物を猶もさよよにさ  
とつよちり又風花なとふ吹くさる吹くさる吹くさる吹くさる  
さあも風をさよのおのつゝつゝ猶もさよよにさ吹くさる吹くさる  
ひ吹くさる吹くさる吹くさる吹くさる吹くさる吹くさる吹くさる  
さるさる

是られさるひも折あさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
よぬきみさる人さあさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさる後拾まを集ふおきあさるさるさるさるさるさるさるさる  
ふきみさる秋のねれをさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
あさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる







 三重県立図書館



140158536